

2011年1月24日

株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町

2-5 F・Kビル

TEL.03-3664-5839 FAX.03-3661-1414

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/><http://www.fcr.co.jp/>

広報部 03-3664-5697

世界の情報機器市場を調査

2020年世界市場予測

スマートフォンは2009年比2.3倍の1.7兆円

スレートPCは2010年比2.8倍の2兆円超

マーケティング&コンサルティングの株式会社富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839)は、ビジネスのグローバル化が進む情報機器12カテゴリー86品目の世界市場を調査した。その結果を報告書「情報機器グローバルマーケット(上・下巻)」にまとめた。

この報告書では、上巻でコンピュータ関連13品目、ストレージ関連6品目、ストレージメディア関連5品目、ネットワーク関連6品目、システム機器関連7品目、産業・医療機器関連6品目、下巻で映像/音響関連11品目、ポインティングデバイス関連4品目、入出力機器関連12品目、パーソナル支援関連3品目、PC パーツ関連9品目、モバイル関連4品目の世界市場をエリア別に分析した。

<世界市場 調査結果の概要>

主なカテゴリー	2010年見込	2009年比	2020年予測	2009年比
コンピュータ関連(パソコン)	3兆5,980億円	109.7%	4兆8,300億円	151.7%
ストレージ関連	5兆8,682億円	109.2%	7兆6,791億円	142.9%
ストレージメディア関連	2兆3,290億円	101.5%	3兆4,817億円	151.7%
ネットワーク関連	4兆2,268億円	107.7%	7兆1,142億円	181.2%
入出力機器関連	4兆9,115億円	101.3%	5兆5,242億円	113.9%
パーソナル支援機器関連	1兆5,422億円	104.4%	1兆7,934億円	121.3%
モバイル機器関連	4兆2,730億円	103.0%	4兆5,600億円	110.0%

コンピュータ関連

パソコンは、先進国におけるリプレイスや2台目需要に加え、新興国の新規需要等により市場は好調に成長していくと見られる。特に先進国ではネットブック需要が一巡しているが、新興国では廉価版ノートPCやネットブックが急速に拡大している。しかし、新興国で参入企業が増加していることから価格競争が進み、製品価格の下落が進むと見られる。

注目市場

	2010年見込	2009年比	2020年予測	2009年比
スレートPC	7,700億円		2兆1,500億円	279.2%
シンククライアント	2,100億円	116.7%	6,300億円	350.0%

スレートPCの2020年予測2009年比は2010年見込比

スレートPCは、キーボードやマウスを搭載せず、板状の本体にタッチパネル式ディスプレイを搭載したモバイル端末である。ここではAppleの「iPad」以降のエンターテインメント性の高いスレートPCのみを対象としている。

海外、日本市場とも「iPad」の発売とともに2010年から立ち上がっている。「iPad」の斬新なデザイン及びユーザーインターフェースが、アーリーアダプター層を中心とした需要を急速に拡大させている。現在「iPad」の他、Dell「Streak」、東芝「FOLIO 100」、Samsung「Galaxy Tab」が発売されている他、HP、Acer等からも発売されると見られ、参入企業の増加から2011年以降市場は急速に成長すると予想される。

シンククライアントは、パソコンの内、ハードディスクを搭載せず、内蔵の記録装置に関してはOSなどのアプリケーション格納用として用いられるもののみを搭載(1GB前後)した専用端末である。端末は筐体別に据置きで使用するBOX型、可搬なノート型、ディスプレイと本体が一体となった液晶一体型がある。

シンククライアントの市場は拡大しており、日本ではビジネスPCのリプレイスのタイミングを迎える企業で大規模な導入が増加している。海外では、ビジネスPCが普及している欧州・北米でのボリュームが大きい、市場の伸び

としては中国、インドネシアが大きい。

ストレージ関連

磁気テープ装置、テープライブラリ、CD/DVD ドライブの市場が縮小すると見られる。磁気テープ装置は先進国でディスクストレージ製品への移行が加速しており、CD/DVD ドライブは新興国需要が旺盛であるが、長期的に Blu-ray ドライブへの移行が進むと考えられる。

一方、ディスクアレイ（複数台の HDD を並列に配置した記録装置）ハードディスク、Blu-ray ドライブの市場が拡大すると見られる。ディスクアレイは、ストレージ容量の不足が顕著化してきたことを受けて需要が再度拡大している。ハードディスクは、新興国における PC 需要拡大に伴い PC 向けが拡大する他、低価格化や高性能化に伴い PC 向け以外でも需要が拡大すると考えられる。Blu-ray ドライブも低価格化により需要が拡大すると見られるが、低価格で大容量化された HDD や SSD などのメモリドライブとの競合も激化していくと想定される。

ストレージメディア関連

市場は磁気テープ、CD/DVD が縮小し、Blu-ray ディスク、メモリーカード、USB メモリが拡大すると見られる。

メモリーカードはデジタルスチルカメラや携帯電話等の普及により堅調に成長している。将来的にもより大容量のメモリーカードに対する需要が高まっており、安定した成長が予想される。USB メモリは製品の普及と低価格化が進み市場が成熟期へと向かっているが、PC 需要の拡大が見込まれる新興国では大きな市場が見込まれる。

ネットワーク関連（モデム/ルータ/スイッチを対象）

モデムは日本、欧州市場で縮小するが、インターネットインフラ整備が進む新興国需要の増加で拡大する。ルータは新興国を中心に拡大する。普及が進む先進国でリプレイス需要やモバイルネットワークへの移行に伴う新規需要等が堅調であるが、日本市場は Next Generation Network 関連投資の終息に伴う反動があり、長期的には微減と見られる。スイッチは日本市場が景気悪化に伴う設備投資抑制の影響を受け縮小している。但し、世界市場は先進国のリプレイス需要、新興国の通信インフラの整備といった新規需要で拡大すると見られる。

入出力機器関連

入出力機器は各地域とも概ね複合型製品に対する需要が高まっている。一方、単機能製品は複合型製品に需要を侵食され市場は縮小している。

ドットマトリックス方式プリンタやデジタル印刷機は特定用途の需要があるものの、他のプリンタに代替されマイナス成長が見込まれる。オンデマンドプリンティングシステムは小ロット、多品種印刷対応や企業の印刷内製化によりアジアを中心に好調を維持すると見られる。

パーソナル支援機器関連

電子辞書は、日本市場がマイナス成長となるが、世界市場は中国を中心としたアジア地域で富裕層需要が期待され拡大すると見られる。日本のメーカーも中国などへの本格進出を進めている。電子メモは日本市場に留まっており、女性向けや数量限定特別デザイン製品の投入などで市場の底上げを進めている。カーナビは自動車市場の回復や、多様化するユーザーニーズをカバーすべくコンテンツの充実などが図られていることから市場が拡大している。また、PND と共に新興国需要が期待される。

モバイル機器関連

携帯電話は、先進国の需要が飽和傾向であるが、新興国では需要が伸びており、世界市場は穏やかに拡大していくと見られる。PHS は最大市場であった中国でサービスが廃止されることとなり、市場は衰退へと向かっている。スマートフォンは今後各地域で拡大すると見られる。電子ペーパー端末は北米で先行したが、中国でも早期から電子書籍に取り組んでおり、北米に次ぐ市場として確立している。

注目市場

	2010年見込	2009年比	2020年予測	2009年比
スマートフォン	9兆8,500億円	131.3%	17兆円	226.7%
電子ペーパー端末	830億円	118.6%	2,200億円	314.3%

スマートフォンは、日本では景気低迷の中でも「iPhone」需要が拡大している。今後も Android 搭載端末の登場が

市場の活性化に拍車をかけると見られる。但し、携帯電話の方が多機能であり、携帯電話からスマートフォンに買い替えるユーザーが少ないため、本格的な普及には至っていない。海外ではNOKIA社のOS・Symbianを搭載した機種を中心に市場開拓されたが、日本と同様に「iPhone」の需要が拡大しており、市場拡大に寄与している。

電子ペーパー端末は、ここでは電子ペーパーを用いた電子書籍端末及びドキュメントビューアとしている。日本市場は「iPad」(調査対象外製品)により、電子書籍への関心が再熱したことを受け電子ペーパー搭載の電子書籍端末への注目度が高まっている。但し、海外の主要製品で日本に投入されている製品が少ないことから市場は極めて小規模である。また、ドキュメントビューアについてもスマートフォンやスレートPC等のユーザービリティの高い端末がある中で、機能面や利便性の面で見劣りする点があるため普及に苦戦している。海外は北米でAmazon.com「Kindle」を始めとした電子書籍端末が急拡大したことから、政府をあげて書籍の電子化を進めてきた中国の需要拡大が牽引し、拡大している。

以上

<調査対象>

コンピュータ 関連	サーバ	スーパーコンピュータ、汎用コンピュータ、オープン系サーバ、ワークステーション
	パソコン	PC、デスクトップPC、ノートPC、コンシューマPC、ビジネスPC、ネットブック、スレートPC、シンククライアント、ホワイトボックスPC
ストレージ関連		磁気テープ装置、テープライブラリ/オートローダ、ディスクアレイ、ハードディスクドライブ、CD/DVDドライブ、Blu-rayドライブ
ストレージメディア関連		磁気テープ、CD/DVD、Blu-rayディスク、メモリーカード、USBメモリ
ネットワーク関連		モデム、PLCアダプタ、ルータ、スイッチ、WiMAX端末、UPS
システム機器関連		POS端末、ハンディターミナル、ATM、カード決済端末、キオスク端末、ラベルプリンタ、金銭処理機
産業/医療用機器関連		PACS、電子カルテ、超音波画像診断装置、超音波イメージングシステム、自動販売機、自動改札機・自動入場機
映像/音響関連		液晶モニタ、ビジネスプロジェクタ、業務用FPD、コピーボード、電子情報ボード、資料提示装置、ICレコーダ、アクティブスピーカー、ヘッドセット、PCカメラ、D/Aコンバータ
ポインティングデバイス関連		マウス、キーボード、タブレット、デジタルペン
入出力機器関連		電子写真方式プリンタ、電子写真方式複合機、ドットマトリックス方式プリンタ、インクジェットプリンタ、インクジェット複合機、フォトプリンタ、デジタル複写・複合機、デジタル印刷機、イメージスキャナ、OCR専用機、オンデマンドプリンティングシステム、産業用マーキング装置
パーソナル支援機器関連		電子辞書、電子メモ、カーナビゲーションシステム/PND
モバイル機器関連		携帯電話、PHS、スマートフォン、電子ペーパー端末
PCパーツ関連		CPU、メモリ、マザーボード、グラフィックボード、サウンドカード、電源ユニット、インターフェイスカード、CPUクーラー、ベアボーンPC

<調査方法>

富士キメラ総研専門調査員による参入企業・関連団体などへの直接面接取材を基本とし、関連文献、社内データベースも活用

<調査期間>

2010年9月～11月

資料タイトル	「情報機器グローバルマーケット 2011(上・下巻)」
体 裁	上巻：A4判 311頁、下巻：A4判 297頁
価 格	各97,000円(税込み101,850円) CD-ROM付価格 各107,000円(税込み112,350円)
調査・編集	富士キメラ総研 研究開発本部 第二研究開発部門 TEL:03-3664-5841 FAX:03-3661-7696
発 行 所	株式会社 富士キメラ総研 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル TEL03-3664-5839(代) FAX 03-3661-1414 e-mail:info@fcr.co.jp この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL : http://www.group.fuji-keizai.co.jp/ http://www.fcr.co.jp/